

研究支援者配置事業を利用されている方へのインタビュー

附属教育実践総合センター 教育臨床研究部門 准教授
廣澤 愛子先生



1. 利用されてどのようなことが変わりましたか？

研究面では、研究補助の方が具体的にはコピーをとったり、データを整理したりの作業を手伝ってくださるので、時間がすごく短縮できました。データ分析や

まとめることの作業に自分のエネルギーを注ぐことができ、有効な時間の使い方が出来たと思います。そして、その影響が生活面にも。仕事が少し片付くと、その分、物理的にも精神的にも少しゆとりが生まれ、家事や育児、その他の面において、ほんの少し丁寧に向き合うことができたように感じます。

2. 当事業の支援を受けたことで、業績が向上したものはありますか？

業績が向上したかどうかは分かりませんが、時間を有効に使うことができ、研究のみならず、学生への教育や管理運営に係わる仕事に、多くのエネルギーを注ぐことができました。また、不登校の子どもやその保護者に対するカウンセリング、発達的な弱さを抱えた子どもたちへの療育活動など、私自身の専門性を活かした地域貢献事業を行うこともできました。つまり、余った時間やエネルギーを別の仕事に充てることができたと思います。

3. 当事業について、改善点やご意見などコメントをいただけますか？

まずは、この支援事業に大変感謝しています。次に、改善点というほどではないですが、例えば他大学では、高度の専門性を有した人が支援員となって研究などをサポートして下さり、同時に、その支援員の方自身のキャリアアップにもつながる制度があると聞いたことがあります。このような制度がありますと双方にとって有益であり、良いシステムだなあと感じました。

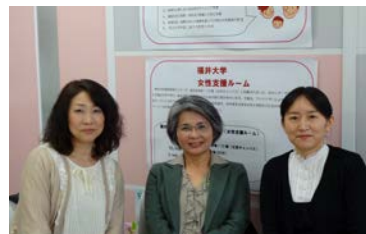
4. 今後の目標

「ゆとりをもちたい」と思います。福井の方、特に、同居の方はうらやましいですね。ときどき、遠方から実家の母が来て家事や育児のサポートをしてくれますが、その時は本当にほっとします。ですが、基本的には夫婦二人でフル回転ですので、どうしてもゆとりがなく…。そこが課題ですね。

5. 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。

研究者になったのは、結果論的なところが大きいですが、初めから研究者を目指そうと思ったわけではなく、就職活動もしていました。私の専門は臨床心理学ですが、今の仕事につく最初のきっかけは、大学生の時に起こった阪神・淡路大震災でした。心の傷や心の病を抱えた人への心理的ケアを行う専門家になりたいと思い、就職活動をやめ、大学院進学を志しました。卒論で震災による心の傷とその癒しをテーマにし、その後、被害体験などをはじめとしたトラウマを抱えた人への支援に関心を持ち、臨床活動と研究活動を行うようになりました。次第に臨床と研究の面白さに気づき、自分が納得いくまでやってみたいと思い、博士課程に進学しました。メッセージというほどのものでもないですが、その都度その都度、自分の関心事ややるべきことがらに丁寧に携わっていくうちに、いつのまにかそれがかたちになるということもあるように思います。先行きの見えない不安な時代であり、また、成果ばかりが求められる昨今の風潮を鑑みますと、あまり悠長なこと言っていられないのかもしれませんが、「まずは夢中になれるものを夢中になってやってみる」というのも一つの選択肢としてあってよいのではないかと、思います。

医学部 講師
伊保 澄子先生



1. 利用されてどのようなことが変わりましたか？

私は母の介護に伴い、平成25年1月から今年度まで、この支援制度を利用しました。大変有難い制度でした。特に、実験（PCR等）を手伝っていただきましたが、支援員の裁量にある程度任せることができたので、論文作成もはかどりました。また、研究時間が確保できるようになり、実施中の産学官共同研究が発展しました。

2. 研究支援員について

研究は日々継続して行われるので、支援員はある程度知識やスキルを持つ方が必要です。また、研究に興味を持ち、積極的、主体的に関わってくださる方がよく、その意味で久保田さんは最適な方でした。技術補佐員の藤井さんは、平成25年10月から来ていただいておりますが、実験に関する試薬の調製や器具の準備など大変助かりました。研究支援者配置制度は、利用者だけでなく支援者にとっても、キャリアアップにつながるのプラスになる制度だと思います。また、仕事に取り組む姿勢は、母親をみている子供にも受け継がれるので、次世代形成にもつながると思います。

3. 今後の目標

年間900万人が新規に発症し、140万人が死亡する結核に対し、革新的な解決策をもたらすワクチンを開発して防ぎたいと思っています。結核のワクチン（BCGワクチン）は乳児に対しては効果がありますが、成人期には効果が衰えているということが分かりました。乳児のときに打っても、一生のものではなく、成人には通じません。これを防ぐために追加ワクチンの開発をしています。まだ、ゴール半ばなので目途がつかるところまで研究をしたいです。

研究支援者配置制度 研究支援員 久保田さんより

臨床検査技師の資格を持っていて、病院勤務も経験してきましたが、私自身、この制度により、色々な経験ができたので、大変ありがたく思います。また、子育てをしながら仕事をするに関して、伊保先生はいろいろとご理解下さり、子どもが急に熱を出して休む場合や、学校の行事等がある場合には、仕事日を調整していただくこともありました。（普通の職場では急に休む場合、大変心苦しいのですが）たとえ急な場合でも、伊保先生は大丈夫ですか？と逆にこちらへお気遣い下さって、本当にありがたかったです。

福井大学男女共同参画推進センター
〒910-8507 福井市文3-9-1 総合研究棟 13階
TEL/FAX 0776-27-9858(内線 2206)
E-mail danjyo@ml.cii.u-fukui.ac.jp / HP http://danjyo.ad.u-fukui.ac.jp/

NEWS LETTER 《特別版》

福井大学 男女共同参画推進センター 第6号 H26.3発行

金沢大学キックオフシンポジウムに参加しました

平成26年1月25日（土）14時～17時30分、金沢大学主催の、「北陸地域における女性研究者ネットワーク（HWRN）構築」キックオフシンポジウムが開催されました。女性研究者への研究活動支援の取組を、北陸地域の高等教育機関、企業などの他機関と連携して実施・普及することにより、北陸地域全体の研究活動の活性化につなげていくことが目的です。

シンポジウムでは、唐木幸子氏（オリンパス研究開発統括部 研究技術者の活躍を願って」と題して基調講演を行い、女性研究者のキャリア形成のあり方の提示や女性研究者へのエールについてお話をされました。

本学からもパネリストとして長谷川支援部門長が参加し、本学の女性研究者活動支援の内容を紹介しました。



学生との交流会を開催しました

平成26年2月10、12、13日の就職支援室合同企業説明会時に、学生との交流会を実施しました。就職を控えた学生もたくさん来られ、「男女共同参画推進センターとは何をするといいか？」など皆さんに知っていただく良い機会となりました。

働く女性の多い福井県の現状や研究職として働く女性もいることなどに興味を持っていただき、また、工学系のアドバイザーである水野先生からも現在の研究などのプチ講義もありで盛り上がりました。

（連日、約30名の参加がありました）



育児・介護支援制度案内パンフレットができました

出産、育児、介護に役立つような福井大学の制度や規則についてまとめた「育児・介護支援制度案内パンフレット」を作成しました。是非ご活用ください。



男女共同参画についての意識調査アンケートを実施しました

男女共同参画に対する意識の向上及び働きやすい職場環境をつくる上での参考にすることを目的とし、アンケート調査を実施しました。ご協力有難うございました。

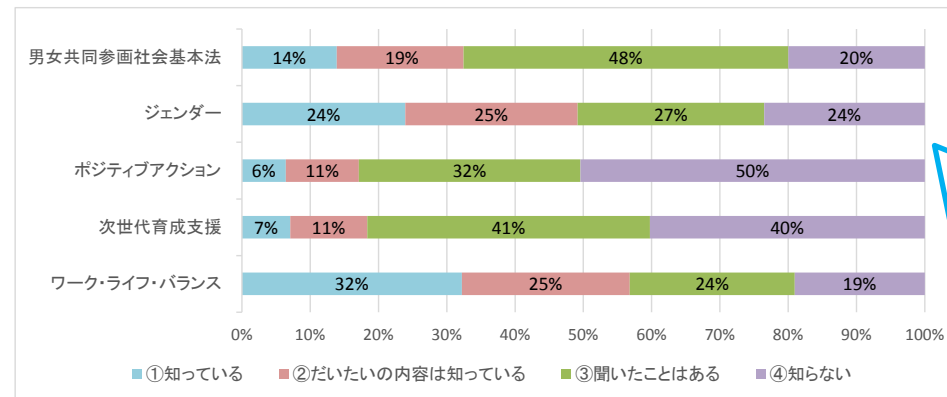
今回はアンケートの調査結果の一部をご紹介します。詳しくは、VDESK掲示板に掲載しておりますので、是非ご覧ください。

「男女共同参画についての意識調査アンケート」結果報告（一部抜粋）

調査方法：教職員へのVDESKによるWeb調査
 医学部附属病院職員への質問紙調査
 調査対象：本学に勤務する全職員（常勤、非常勤含む）
 実施期間：平成25年8月30日～9月30日

対象数：2,468人
 回収数：967
 回収率：39.2%

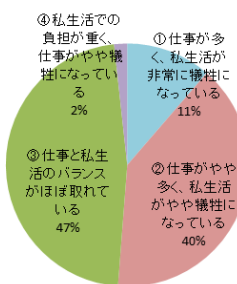
〇男女共同参画に関する次の単語を知っていますか。



各単語について、「知っている」「だいたいの内容は知っている」を合わせた回答が高かったのは、ワーク・ライフ・バランス（57%）、ジェンダー（49%）であったが、両項目とも5～6割程度であった。

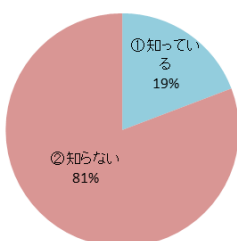
一方、「知らない」「聞いたことはある」を合わせた回答が高かったのは、ポジティブアクション（82%）、次世代育成支援（81%）であり、8割の者が単語やその内容を知らなかった。

〇あなたの仕事と私生活の時間配分についてお尋ねします。現在、あなたが理想と考えるバランスで生活できていますか。



「仕事と私生活のバランスがほぼ取れている」と答えた者は47%であった。しかし、「仕事はやや多く、私生活がやや犠牲になっている」（40%）と「仕事が多量、私生活が非常に犠牲になっている」（11%）を合わせると51%であり、バランスの取れている者と取れていない者とに二分された結果であった。

〇男女共同参画推進センターが行っているニュースレター、ホームページ等の広報活動を知っていますか。



男女共同参画推進センターが行っている広報活動を「知らない」と答えた者が81%であり、ニュースレター、ホームページ等の周知度は低かった。

病児保育施設等利用助成制度を開始しました

本学の女性研究者が研究活動と育児の両立を支援するため、病気治療中又は病気回復期にある子を保育施設に預ける場合の利用料に対する費用の助成を行う「病児保育施設等利用助成制度」を始めました。

なお、この制度は、科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」において、新たに病児・病後児保育等の利用に対する支援制度の構築が認められたことに伴い、実施するものです。

【支援の対象者及び助成内容】

女性研究者

男性研究者

※男性研究者の場合、配偶者が大学等（大学共同利用機関、独立行政法人を含む）において研究に従事（1週間当たりの勤務時間が38時間45分以上）している方が対象です。

*小学校3年生までの子を養育している方

ただし、産前産後休暇中、育児休業中の方、3人目以降で3歳までの子は除きます。

*子ども1人につき年度内12回を上限に、病児保育施設等の利用料金の半額（1日1,000円を上限）を助成（利用した日が連続した場合は1回とします。）

〔3人目以降で3歳までの子については、福井県が「ふくい3人っ子応援プロジェクト」にて助成をしています。〕

【申請及び選考方法】

様式第1号（利用助成申請書）を男女共同参画推進センターまで提出してください。（年度毎に申請が必要です。）申請内容を総合的に判断し、助成の可否を決定し、結果を通知します。

※詳細は、女性研究者研究活動支援事業（病児保育施設等利用助成制度）案内をご覧ください。

案内および様式第1号（利用助成申請書）は、「VDESK→全学掲示板→女性研究者活動支援事業（病児保育施設等利用助成制度）案内の送付について」より入手できます。

随時相談に応じますので、ご遠慮なく男女共同参画推進センターまでお申出ください。

男女共同参画推進センターアドバイザー（女性研究者）の研究発表がありました

平成26年3月5日、6日、7日に、平成25年度福井大学遠赤外領域開発研究センターによる国内共同研究成果報告会がありました。

男女共同参画推進センターアドバイザーであり、元福井大学工学部准教授水野和子先生も、7日に報告者として参加されました。「弱い水素結合のテラヘルツ時間領域分光法研究」という研究テーマで、ご自身の研究を発表されました。

